

2 コラボワークソリューション

# つなぐ技術で企業や働く人の豊かな「コラボレーション」をデザイン

NTT コムウェアは、フロントラインワーカーを擁する企業をターゲットとし、現場のデジタルシフトを通して、企業の DX、デジタルエンタープライズへの変革を支援している。

## 進まない フロントラインワーカーの デジタルシフト

フロントラインワーカーはデスクベースワーカーの4倍規模、世界に約27億人いると言われている\*1。現場では人手不足・長時間労働・スキル継承・安全確保といった課題が山積している。これらの課題解決のため、現場のデジタルシフトは喫緊の課題だ。また、フロントラインワーカーを擁する企業では、現場にデジタルシフトが停滞しているがゆえに、企業全体に歯止めがかかっている状況も見られる。

こうした背景から、NTT コムウェア

は「CollaboWorkSolution®（コラボワークソリューション）（以下、本ソリューション）」によって、フロントラインワーカー及びフロントラインワーカーを擁する企業を支援している（図1）。

## コラボワークソリューションの提供価値

本ソリューションの提供価値は、以下の3点にまとめられる（図2）。1つめは、「現場業務のデジタルシフト」。例えば、口伝・メモ・ホワイトボード、個別に導入したツール等現場によって異なっていた



NTT コムウェア株式会社  
エンタープライズソリューション事業本部  
ビジネスイノベーションソリューション部  
第1ソリューション部門  
（前列左から）部門長 田中 利享 氏  
統括課長 松本 郷史 氏  
（後列左から）担当課長 長森 藤江 氏  
担当課長 成田 賢太郎 氏  
スペシャリスト 北山 翔悟 氏

コミュニケーション手段を最適なデジタルツールに統一し、情報共有をスムーズにする。2つめは、「業務プロセスのデジタルライゼーション」。現場のデータをオフィス側が一元的に管理・分析することで、これまで暗黙知で継承されていた技術等を可視化し、後継者育成に活かすことができる。そして最後の1つは、「企業全体のDX」。得られたデータの活用範囲を現場だけでなく自社全体、業界にまで拡大し、既存ビジネスモデルの変革につなげるのが可能になる。

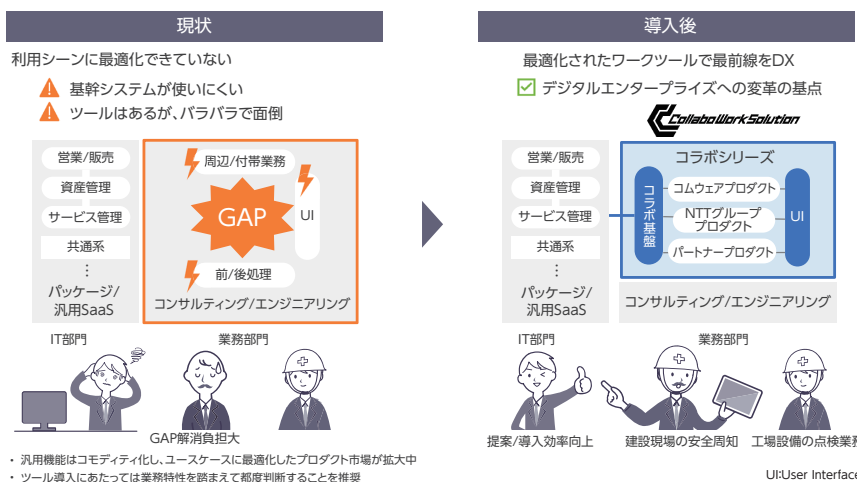


図1 企業の現状と「コラボワークソリューション」導入後

## デジタルエンタープライズ企業への 変革を支援

NTT コムウェアは、自社プロダクト・NTT グループのプロダクト・パートナープロダクトのデジタルツール群を活用し、各業界のビジネスシナリオを構築したうえで、それぞれに特化したソリューションを開発している。2024年1月現在、NTT コムウェアは「フィールドコロラボ®」、「プラントコロラボ®」、「ゼネコンコロラボ®」の3種をSaaSにて提供。いずれもトライアルでの利用が可能だ。

### ■フィールドコロラボ(点検/工事DX)

元々はインフラ事業現場を領域として開発された本サービス第一弾。NTT インフラネット株式会社の協力を仰ぎ、フロントラインワーカーの作業実態について理解を深めながら、機能を検討した。現場の進捗管理とコミュニケーション(報告・連絡・相談)の一体化により、現場の働き方のDXを実現する。また、進捗状況や証跡写真など、あらゆる情報を報告と紐づけて自動的に蓄積し、蓄積した情報をオフィスの業務システムと連携することで、プロセス全体のDXも実現する。現場とオフィスでのコミュニケーションが必要な業務であれば、業種を問わず利用できる。

### ■プラントコロラボ(製造業DX)

製造業などの大規模な生産設備工場での設備運用開始から保全業務まで、日々の現場の情報をオフィスと共有することで、フロントラインワーカーの作業を軽減し、プラント全体の持続可能な運営に貢献する。

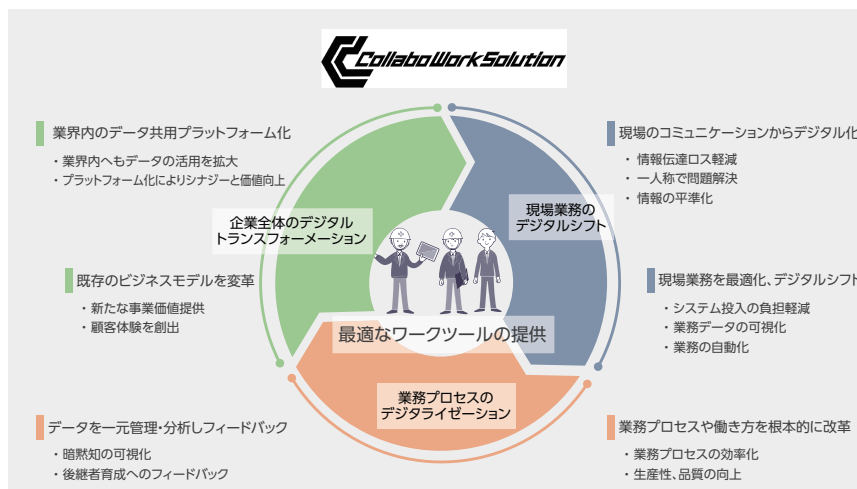


図2 「コラボワークソリューション」概要

それまで統一されていなかった業務結果が集約されることで管理者は情報の取りまとめや管理業務の負担が軽減する。

### ■ゼネコンコロラボ(建設業DX)

ゼネコンコロラボは、建設業などの現場業務でコラボレーションを支援する機能により、現場全体の業務効率化および生産性向上を実現し、総労働時間の短縮に貢献する。

これまで紙で情報伝達していた安全管理の資料や図面を、必要とする人だけに迅速に配信することでタイムロスをなくす。スマートフォン等で簡単に確認することも可能である。

企業の現場を視察ヒアリングし、現場での活用に最適なユーザインタフェースを考慮して開発を進めてきた。例えば、現場では危険を回避するために厚手の手袋を着用しており、情報入力にはタッチペンが必須であると改めて認識することができた。

また、フロントラインワーカーが働く、警備業界や医療・介護業界等にむけたコラボレーションも順次拡大していく方針だ。

## 今後の展開

フロントラインワーカーが屋外等の現場で働く際には、環境によっては熱中症や凍傷などのリスクが高くなる。また、万が一事故が発生した際には、緊急車両の手配や労災申請の書類作成のために正確な時間や場所の特定が必要となる。こうした事態も視野に入れ、ウェアラブル機器との連携も進めている。

事故が発生した場合の対応はもちろん、例えば年齢・場所・天候・気温・作業内容等事故発生に関するデータを蓄積し分析することで、新たな事故を未然に防ぐことも可能となる。データを活用することで、ワーカー自身が気づいていないことまでフィードバックが可能になり、それにより安全・安心、Well-beingな仕事や生活が生まれる。NTT コムウェアはそのような世界観をめざしフロントラインワーカーの現場を支援していく。

※1 Future of Work Trends: 5 Trends Shaping the Future of Frontline Workers  
Published 15 October 2021 - ID G00751103  
The Rise of Frontline Workers Leif-Olof Wallin